

後書き

1996年度の表現論シンポジウムは、三河湾に面した景勝の地、『三河ハイツ』で、1月19日～22日の期間行われました。まず会場の世話をして下さった名古屋大学(多元数理研究科)の林、岡田の両氏に感謝します。表現論シンポジウムも参加人員85名となり、メンバーは軽く100人を超えるようになりました。

思い出せば、私が参加するようになってから四半世紀が過ぎています。その頃はシンポジウム参加も30名程度で、合宿形式の会場の世話もそう苦労は無かったように覚えています(新徳高温泉での会を世話しました)。しかし年々人数が増え、会場の世話の苦労も幾何級数的に増えている事とおもいます。しかし、泊り込んでこそ生まれる連帯感から得られるものも多かったはずで、今後とも、長くこの形式のシンポジウムが続くことを願っています。

シンポジウムの経費(旅費、会場費)は、科研費 基盤(A)(1)『函数解析学と実解析学の総合的研究』代表者 東京理科大 小松彦三郎 教授から出ていますが、会の運営費は一部科研費 基盤(B)(1)『関数解析とその応用』代表者 広島大学 大春 慎之助 教授を使わせていただきました。

上のような事を書いたのは、もう御存知の方も多いでしょうが、今年度から科研費の区分が大幅に変わりました。上の2つの科研費は旧制度下で申請された総合研究でした。新制度では、総合と一般の区別がなくなり、これまでの総合研究的な広い範囲をカバーする申請がやりにくくなっています。したがって、来年以降同じようなやり方でこのシンポジウムの運営が出来なくなる可能性が出てまいりました。もちろん、各自が旅費を持ちよるという形式では可能でしょうが、院生へ旅費、会場費等の大きな問題が残ります。幹事役としても、精一杯の努力はしますが、会としての方向づけの議論が必要と思われます。ちなみに今年の幹事役は、竹中、橋爪、佐野です。来年度もこのままで、2年後の平成10年度に竹中が交代します(6年任期です)。御意見はこの3人(又は、表現論選出の評議員、しかし表現論の権利が2/3人で今年度は休みの年です)まで、お願いします。

大学が変わりつつあるように、研究組織も変わる必要があるようです。(願わくば、悪い方向に変わりませんように)。

(1996年11月 分責 竹中@岡山理科大学)
(takenaka@stable.xmath.ous.ac.jp, PAG01526@NiftyServe.or.jp)